

## 1. 大悲閣千光寺

### ◇基本情報

所在地：京都市西京区嵐山中尾下町 62

山 号： 嵐山

宗 派： 黄檗宗系単立

本 尊： 千手観音菩薩

### ◇概 要

大悲閣千光寺は、嵐山にかかる渡月橋から約 1km 上流の大堰川(保津川)の切り立った岩肌に建つ観音堂で、峡谷の絶景を眺めることができる。

1614 年（慶長 19 年）に、江戸時代の豪商 角倉了以が大堰川を開削する工事で亡くなった人々を弔うために建立した。山号は嵐山、寺号は大悲閣千光寺。本尊は恵心僧都作と伝えられる千手観音菩薩。

角倉了以は天台宗を奉じたが、子孫の角倉玄寧（げんねい）が、1808 年（文化 5 年）に大顛を迎えて再興したときに、寺は黄檗宗となっている。

### ◇歴 史

千光寺はもともと京都嵯峨の清涼寺の西方中院にあった。後嵯峨天皇の祈願所だったが長らく衰退してしまっていた。1606 年（慶長 11 年）に大堰川の開削に成功した角倉了以が 1614 年に現在の地へ移し、大悲閣を建立し、二尊院の道空了椿を請じて開山とした。また、角倉了以自身も大悲閣に住み、開削した諸川の通船の便益を念じたと言われている。

寺は明治維新の際に大悲閣を除き境内、山林、什宝等多くを失ったが、その後に寺地を拡張し、漸次諸堂が整備されている。また、1959 年（昭和 34 年）9 月の伊勢湾台風での被害は大きく、千光寺本堂は 1978 年に解体された。大悲閣は屋根が飛び、建物自体も激しくゆがみ、ご本尊の千手観音菩薩は、角倉了以像と共にその後に建てられた仏殿に安置されている。

角倉了以像は巨縄を巻いた形の円座（木彫）に坐し、石斧を手にして右立て膝の構えで大堰川を望んでいた。この木造は「巨綱を巻いて座となし、犁をもって杖をなさん」という了以の遺命によって作られたものと言われている。本堂解体の際には、残念な事に了以翁を讃える記念碑は傷つけられ左上部が欠損している。

その後、大悲閣はワイヤーで補強され、本堂は仮本堂となったが、2012 年（平成 24 年）1 月より大悲閣の解体修理がはじまり、同年 10 月に修理が完了し、11 月より一般公開されている。

### ◇参考資料

- ・大悲閣ホームページ：<http://dai hikaku.jp/wp/>



大悲閣千光寺より大堰川(保津川)を望む



角倉了以座像